

地域包括ケアにおける認知症者のサポート施策の展望

990-996

1

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

―第2の柱“認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供”の推進に向けて

●延 育子

998-1002

2

地域での認知症初期集中支援チーム事業の実践―世田谷

●高橋裕子

1004-1007

3

世田谷区における認知症初期集中支援チームにかかわって

●村島久美子

1008-1010

4

大分における認知症初期集中支援チームの取り組みと課題

●川井梨沙

1011-1014

5

認知症初期集中支援チームを開始して―大分県杵築市

●篠原美穂

1015-1018

6

「家族の会」の活動と初期支援についての期待―心理的負担に対する支援の必要性和そのあり方に関する考察

●田部井康夫



2025年には高齢者の5人に1人、約700万人が認知症あるいはその予備軍と予測されている。国は地域包括ケアシステム構築にあたって認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定し、認知症者の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指している。そのために、認知症初期集中支援チームによる初期段階での支援システムをモデル事業として展開させ地域に定着させようとしている。本特集では、認知症初期集中支援チームの概要とモデル事業の成果を紹介し、地域包括ケアシステムにおける認知症支援施策を理解する機会としたい。

企画担当 ● 佐藤浩二（大分岡病院，作業療法士）